



第26回定期地本委員会を開催!

スローガン

- 2021 J R 総連春闘勝利！
コロナ禍を利用した「雇用不安」「危機意識」の煽りに騙されず、地域の仲間とともに平和と人権を守り、労働運動の未来を創造しよう！
- 憲法改悪阻止！あらゆる権力者の横暴を許さず、国民投票に「NO！」を示す仲間を一人でも多く拡大しよう！
- 年休失効、年休権の侵害は許さない！
会社の法律無視を許さない！労働者の安全と健康を守るため、諦めず流されず関連会社の仲間と共に労働条件の改善をかちとろう！
- 職場からの闘いを愚直に推し進め、さらなる組織の強化・拡大による組織展望を切り拓き、東海労結成30年を迎えよう！

2月28日、地本は感染予防を行いながら第26回定期地本委員会を開催しました。委員会は、関西地区分会の柿本委員を議長に選出し、来賓として本部から畑野副委員長、山内総務部長と地本OB会から工藤会長、東事務長が参加され、代表して畑野副委員長からは、第34回定期中央委員会、春闘交渉などに関する報告と決意がありました。

小林委員長からは、コロナ禍を利用した権力者の狙いを明らかにして騙されず、労働者の権利を守るために多くの仲間と連帯しよう！東海労の未来と組織を築くため、組織の強化・拡大を目指そう！と挨拶がありました。

新幹線関西地本小林委員長

私たちは今後も労働者の立場に立った闘いを職場の仲間と共に展開していく！！



委員会宣言(案)

本日、私たちは新大阪丸ビルにおいて第26回定期地本委員会を開催し、2021春闘をはじめとした当面する闘いの意志統一を行った。

私たちは2021春闘をJR総連そして職場の仲間と共に闘い抜く。

私たちはコロナ禍を口実とした賃金抑制と労働条件の改悪を許さない。

私たちは組合員の切実な声を無視して、自ら「安定的支給ベース」を放棄したユニオン指導部を絶対に許さない。

会社は、「政府から『雇用調整助成金』を受給するために一時帰休を実施することにした」と私たちに説明した。すると、早速あちこちの職場で管理者による「あの国鉄改革の時を想起させる」とか「今は本当に大変な時」「アフターコロナに向けてしっかり体力をつける時」「一時帰休中は自己研鑽を」等の大合唱が始まった。まさに「欲しがりません勝つまでは」という意識の注入である。

東海労はいち早く、「この一時帰休の目的は雇用不安を煽ることにより、言いなりになる社員をつくることであり、更なる賃金抑制と労働強化を実現するためのものだ」と、会社とユニオン指導部の企みを暴露してきた。それ以降、ユニオン指導部がいかにも組合員のために会社と交渉を重ねているかのような情報が連日発行されている。様々な問題が発生しているにもかかわらず、組合員の声を無視して労働条件の改悪を先導してきたユニオン指導部に対して、組合員から不満の声が相次いでいるからである。

最近では一時帰休時の過ごし方について、ユニオン指導部が会社経営陣を代弁して「モラルハザードが発生している」とまで言い出す始末である。

沿線住民の反対の声を無視して「ペイしないリニア」の建設を強行する会社とそれを支えるユニオン指導部こそ「モラルハザード」である。

騙されてはいけない。会社の経営状況に関係なく私たちの労働条件は改悪され続けてきたのである。今後も、私たちの先達が職場の仲間と共に闘い取ってきた成果が次々に無くされようとしているのである。

この度の問題といい、シーツ類の交換問題といい、昨年末のJR東海労新幹線関西地本事務所取り囲み騒動といい、ユニオン指導部が誰を守ろうとしているかは明らかである。

私たちはユニオン指導部に無視をされ苦しんでいる多くの労働者を知っている。

私たちは会社の言いなりにはならない。

私たちは会社とユニオン指導部に騙されない。

私たちは職場の仲間に真実を伝えていく。

私たちは会社の不法行為を許さない。

私たちは先達が闘い取ってきた成果を守るために闘う。

私たちは今後も労働者の立場に立った闘いを職場の仲間と共に展開していく。

以上宣言する。

2021年2月28日

JR東海労働組合新幹線関西地方本部
第26回定期地本委員会